

立ち読みPDF

国際教養大学理事長・学長

中嶋嶺雄著 Mineo Nakajima, Ph.D.

世界に通用する子供の育て方

Forest
2545
Shinshyo

はじめに
世界に通用する
子供を育てる！



本書を手にとったいただき、ありがとうございます。

中国の天安門事件とは対照的に、ベルリンの壁が崩壊し、世界的なグローバル化が始まって、20年以上になります。

この間、IT革命（Information Technology 情報革命）も進んで世界の枠組みは一変し、国家の枠を超えて、人や情報の移動が活発になりました。

こうしたグローバルな世界において必要とされているのは、**十分な語学力を備え、世界に発信していける人材の育成**です。

人材育成において何よりも大切なのは「**教育**」です。

そもそも、日本が近代化に成功したのは、文化的伝統とともに公教育がしっかりしていて、優れた人材の育成に成功したからでした。

日本は教育に力を注いだからこそ、明治維新以来、アジアの、そして世界のリーダー国として活躍できたのです。

一方、今の日本の閉塞へいそくした現状、そして教育の現場はどうでしょうか？

例えば、「ゆとり教育」による子供たちの学力低下が懸念され、方向転換を図るなどの迷走が続いています。

外国語教育についても、多くの日本人は中学、高校、大学と10年以上も英語を勉強しているにもかかわらず、実際に英語を使いこなせる人はごくわずかです。英語教育の在り方が根本的に間違っていたと言わざるを得ません。

大学教育全体もあまりに閉鎖的で、世界に通用する新たな人材を生みだす先進性に欠けています。

今、日本は深刻な経済不況下にあり、社会全体の活力が失われています。

2008年のリーマン・ショックに端を発した一連の金融危機にも一因はあるでしょう。

しかし、より根本的な問題を探っていくと、グローバル化の時代に活躍できる人材の不足こそが、最大の問題ではないでしょうか？

世界に通用する人材の育成は、一朝一夕でできるものではありません。やはり幼児教育の段階から心がけてゆくことこそが必要だと思えます。

現在、韓国、中国、台湾をはじめとするアジア諸国では、子供たちの英語教育に積極的に取り組んでいます。

これはグローバル化の時代に対応し、「世界に通用する人材」を育成しようとする国家的な戦略だと言えるでしょう。

日本においても、教育を根本的に変え、グローバル世界で活躍できる人材を育てていかなければ、もはやこの停滞からは抜け出せないのではないでしょうか？
教育は、国家的な未来への投資なのです。

では、「世界に通用する人材」に必要なとされるのは、いったい何でしょうか？
それは、**異文化を理解すること**です。

そのためには、まず言葉の壁をクリアしなければいけません。

現在、世界の共通言語のポジションにあるのは、文句なしに英語です。

例えば、日本人、中国人、韓国人の3人で会話をするとしましょう。

その時に共通の言語になるのは、中国語や韓国語ではなく、また日本語でもなくして、結局は英語でコミュニケーションをとることになるでしょう。

この時に英語を話せなければ、一人だけ孤立することになってしまいます。

日本では中学、高校、大学と10年以上英語を勉強しても、英語で仕事ができる人材は、毎年の大学卒業者のわずか1%だと報告されています。

まずは英語教育を根本的に変えていく必要があるでしょう。

また、ただ英語ができるだけでは、本当に国際社会で通用する人間とは言えません。**豊かな教養と広い視野を持ち、クリエイティブに発信していける力。**

この力がなければ、異文化を理解して、国際社会で通用する人間にはなれません。世界的に有名な文化人類学者のエドワード・ホール博士も、名著『文化を超えて Beyond Culture』で「事前学習による知識がないと、文化は圧倒的な壁になって立ちほだかる」と述べています。

異文化というものは、それくらい衝撃的なものなのです。

冷戦構造が崩壊した今でも、民族、宗教さらには言語などの対立による紛争が世界各地で起きていますが、その一因は**異文化への理解の欠如**です。

ここで大切なのは、一人ひとりが自らのアイデンティティを持ちながら異文化を理解し、協調していこうとする成熟した生き方、考え方ではないでしょうか？ 自分たちの立場や利益ばかりを優先させると、ハーヴァード大学の故サミュエル・ハンティントン教授が予見したような「**文明の衝突**」が世界に拡がってしまふでしょう。

グローバル化の時代、その影響はすぐに世界各地へと連鎖していきます。

アメリカで起きたサブプライム・ローン問題のようなマネー資本主義がグローバルに展開される時代だからこそ、一人ひとりが他者を思いやるヒューマニズムの立場を持つことが、これまで以上に大切になってくるのではないのでしょうか？

そのために大切なのは、やはり「**教育**」です。

より激しくなる国際競争に対応するために、**グローバル化教育に力を入れると**

ともに、しっかりとした教養を身につけ、公共の精神と道義を持った日本人を育成していく必要があると思います。

だからこそ、異文化教育を行い、Beyond Culture を実現していくことが大切です。そして異文化を理解するとともに、日本の良さを海外へ発信していくことが大切なのです。

こうした教養教育を含め、総合的な人材育成を目指す場が、今の日本の大学には大きく欠如しています。

その危機意識と使命感から、2004年、私たちは全国初の公立大学法人として、秋田県に国際教養大学を開学しました。

真のグローバル・スタンダードの大学教育を目指し、教員に外国人を多く採用し、授業はすべて英語、しかも徹底した少人数クラス制をとっています。

新入生は全寮制ですし、全学生が1年間海外に留学し、同時に留学生が全世界から来ています。

このようなまったく新しい大学ですが、おかげさまで、地方の大学であるにも

かわらず、全国各地から意欲ある若者たちが集い、2007年度の第一期卒業生の就職率は100%でした。

2008年度は99・1%、2009年度は100%で全国一の就職率となり、その多くが、名だたる一流企業へ総合職として就職しています。

ただし誤解しないでいただきたいのは、国際教養大学は英語専門の大学でもなければ、就職に特化した大学でもないということです。

あくまで、「世界で活躍できる人材を育てる」という教育が功を奏した結果として、高い就職率になっているのです。

「教育」という言葉は、「教えて、育てる」という孟子もつしの言葉から来ています。

しかし、これまでの日本の教育は「教える」ことばかりに主眼を置き、「育てる」ことをないがしろにしてきました。

それは何も学校教育だけの問題ではありません。

家庭教育から大学の在り方まで、教育の哲学を社会全体で問い直す時が来てい

るのではないのでしょうか？

本書では、教育の原点をあらためて問い直すとともに、グローバル化時代に求められる「家庭教育」「学校教育」の在り方を提唱しました。

一刻も早く、戦後の教育で失われてしまった「日本の良さ」を取り戻し、世界で通用する人材を育成しなければいけません。

そのためにも、幼児教育から大学教育まで、「子供の育て方」という教育の哲学を根本から見直し、変えるべきところは大きく変えていかなければなりません。

社会全体で真剣に教育に取り組んでいくことができれば、伝統ある文化と成熟した知識基盤を持つ日本という国は、まだまだ伸びていくはずです。

子供さんのお父さんお母さん、先生方、未来を担う学生諸君、そして一般の方々にも広く本書を読んでいただければ幸いです。

2010年12月8日 秋田にて

国際教養大学理事長・学長 中嶋嶺雄

もくじ

はじめに…………… 3

第1章 世界レベルの子供を育てる「親の考え方」

- 日本の教育には根本的な間違いがある！…………… 20
- なぜ、子供のしつけがうまくいかないのか？…………… 23
- 自由奔放な教育では、才能は育たない！…………… 24
- 才能を育む「誉め方」とは？…………… 27
- 子供の才能を開花させる「スズキ・メソード」とは？…………… 31
- 「英才教育」を施すことではない！…………… 36
- ポイントは耳から聴いて覚えさせること！…………… 38
- なぜ、日本人は英語ができないのか？…………… 42
- ネイティブに近い7000語の語彙力を身につける方法…………… 44

●「義務教育の英語」では遅すぎる!……………48

●「英語をやらせると日本語がダメになる」は本当か?……………51

●日本の教育は変わるか?……………55

●世界で活躍できる人材の条件とは?……………56

●日本のことを説明できますか?……………59

●親の意識から、すべてが変わる!……………62

第2章 子供をやる気にさせる「環境の作り方」

●海外に学んだ「勉強に最適な環境の作り方」とは?……………66

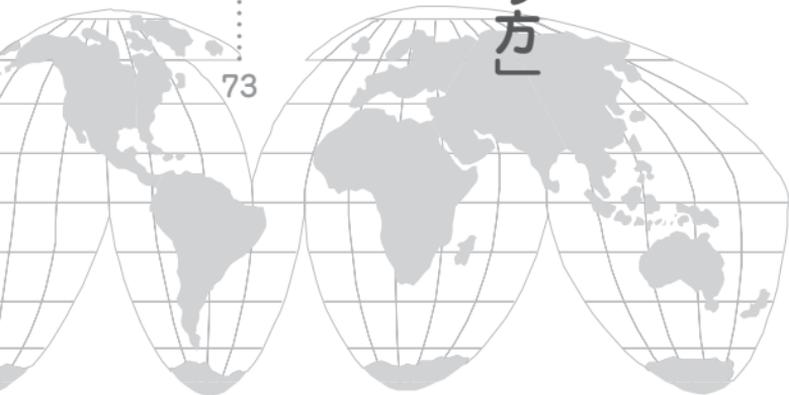
●日本の大学に足りないものとは?……………68

●国際系の大学は本当に必要か?……………70

●なぜ、秋田県は全国学力テストで4年連続トップなのか?……………73

●家庭環境だけでは、子供は伸びない!……………76

●子供の自立心を育てなさい!……………79



- 「AFS」「YFU」を使って留学する！……………81
- 留学させずに、異文化に触れさせる方法とは？……………84
- 日本で留学が減っている理由は？……………87
- 海外では留学生争奪戦が激化している！……………90
- これからの時代は地方に目を向けなさい！……………93
- 子供のうちから、自然環境に慣れ親しませる！……………96
- 高校を辞めて働け！……………98
- 若いうちに「逆境」を経験させなさい！……………101

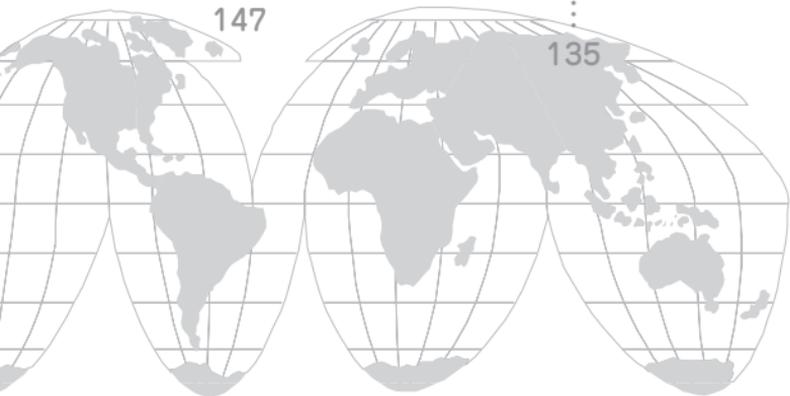
第3章 子供の才能を育てる「習慣の作り方」

- リベラル・アーツ（教養）教育の素養がなければ、世界では通用しない！……………106
- 名ばかりの国際化では意味がない！……………109
- 図書館が24時間開放されていないのはおかしい！……………112
- 「Culture」の語源を知っていますか？……………115

- 「グローバル化時代の必読書」とは？…………… 118
- 学生のうちに読んでおくべき3冊…………… 122
- 子供に知的好奇心を持たせる方法とは？…………… 125
- 世界に目を向ける冒険心を育てるには？…………… 126
- 歴史の見方はひとつではない！…………… 129
- 1日怠けると、2日後退する！…………… 131
- 毎日少しずつやれば、英語だって必ずマスターできる！…………… 135

第4章 世界に通用する「学力の伸ばし方」

- 「平等主義」が日本の教育をダメにする！…………… 140
- 教育基本法の解釈が間違っている！…………… 143
- なぜ、日本のエリートは国際社会で通用しないのか？…………… 147
- 本当のエリートを育てる教育とは？…………… 149
- アメリカと日本の教育の根本的な違いとは？…………… 153



- 能力別クラス、少人数制で英語力が伸びる！……………155
- 英語力をさらに伸ばす秘訣とは？……………158
- カリキュラムは「できる人」に合わせる！……………160
- 新しいことをやらなければ、日本の教育は変わらない！……………162
- 英語ができて、深い教養がなければ意味がない！……………164
- 英語は基礎にすぎない！……………166
- 世界を知る！……………169
- 子供の学力を伸ばすのに、どのくらいお金をかけるべきか？……………171
- 「お金をかけずにできること」を考えてください！……………174

第5章 子供の学力を伸ばす「大学の選び方」

- 国公立大学「法人化」で大学教育は変わるのか？……………180
- どのような改革を進めているかがポイント！……………183
- なぜ、大学は定員を表示しないのか？……………186

- 一流企業も認めた「就職率100%」の理由……………188
- 子供の可能性を閉ざす「コンパートメンタリゼーション」とは？……………192
- 留学先、サポート体制は充実しているか？……………196
- なぜ、日本の若者は内向きなのか？……………199
- 子供の進路を分ける「才能」と「天分」の違いとは？……………201
- あなたは「子供の自己発見のプロセス」を手助けできますか？……………205
- 新時代の大学院を！……………208
- 国際水準の大学院教育とは？……………211
- 子供の未来、日本の未来は変えられる！……………213

